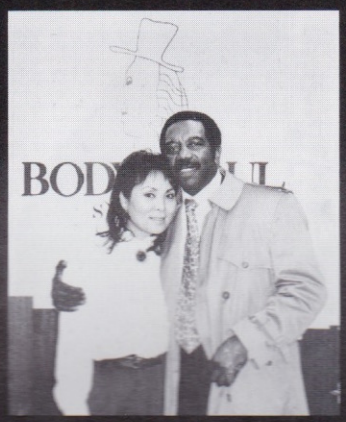
BODY & SOUL

身も心もジャズに捧げた41年

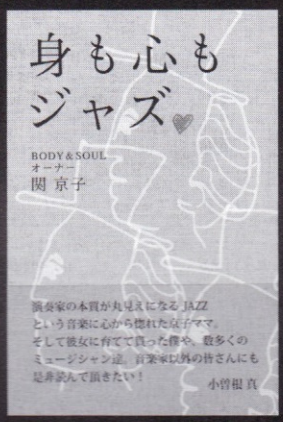
関京子とボディ&ソウルの物語

文＝三森隆文（本誌編集長） Photo Courtesy of BODY&SOUL

新宿百人町時代の店内と関



北青山時代にジミー・スミスと



身も心もジャズ（関京子 著 ブイツーソリューション 刊）

ひとを惹き付ける力。

これを持つひとには多くのひとがひきよせられる。仮に40年で計算すれば1日1人として14,600人。あくまで目安だが，それに匹敵するファンを掴んできた人物がジャズ界にいる。関京子。不思議なロゴで知られる老舗ライヴ・ハウス“BODY & SOUL”のオーナーだ。同店は昨年8月8日に40周年を迎えた。そこに去来した人々，出来事を「読み物」として残したいと思い立った関は，1年を費やし自伝を書き上げた。タイトルは『身も心もジャズ』。「店名の邦訳でしょ」と言うなかれ。人を惹き付けるには天賦の才だけでなく努力も必要。これはジャズに身も心も捧げてきた美貌のオーナーとその情熱に惹かれた人々の物語なのである。

●

松竹芸能学校を出てSKD（＊1）で活動していた関は，女の園の雰囲気が嫌いで新宿のジャズ喫茶に通うようになった。

当時はジャズを聴く，というだけで不良と思われたジャズは不良の音楽。ジャズは退廃的な音楽と言われ，世間の目を気にしながら聴く時代だったのです。

11月23日に行われた出版記念パーティの発起人となった中平穂積氏は「その頃はジャズ喫茶にいく女の人は少なく，関さんのことはよく覚えています」と語った。

1965年に日本で最初のジャズ・ライヴ・ハウス“タロー”を新宿

ジャズ・ライヴ・シーンに大きな足跡を残してきた関京子

"BODY & SOUL"ならではの豪華なセッション。左から,チャリート,伊藤君子,TOKU。ベースは楠井五月

世代を超えた3人による連弾。左からユキアリマサ,宮本貴奈,山本剛

司会とスピーチを務めた中平穂積氏

古くからの常連客による音頭で乾杯が行われた。このアット・ホームな雰囲気も同店の特徴だ

歌舞伎町にオープン。無名だった菊地雅章や日野皓正といった日本ジャズの次代を担う才能が集った。74年には新宿百人町にレコードでジャズを聴かせる深夜ジャズ喫茶"BODY & SOUL"を開き，77年に六本木に移転。ピアノ弾き語りをメインとするライヴを始め，85年にはコンボが演奏出来る本格的なライヴ・ハウスへと生まれ変わり，91年に北青山，92年に南青山に移転して現在に至る。

新宿時代は若きアーティスト，ジャズに惚れ込んだ若者や学生たちが訪れた。六本木に移り，ライヴが本格化すると今で言うセレブもつめかけた。さらに海外のアーティストにも口コミで「東京にいったらボディ&ソウルというお店に行ってみろ」という評判も広まり，来日中のビッグネームが次々と店を訪れた。

ジャズのメッカ，ニューヨークにも行った。タウンホールでセシル・テイラーを聴いてしばらくしてから，来日したセシルが山下洋輔と連れ立って六本木の店に現れた。

「キミのために弾く」と弾いてくれましたが，私は前衛ジャズはあまり好きではなく，全体は何を演奏しているのか分かりませんでした。が，途中でわずかに♪~I'm all for you Body and Soul~のメロディを聴き取ることができました。旋律があまり良くわからない中に聴こえてきたそのメロディが際立って，あまりに素晴らしくて私はなぜか涙が溢れてきました。

感動的なエピソードはまだまだあるが，あとは本書をご覧戴きたい。

●

去る11月23日には2部構成の出版記念パーティが行われた。参加者は約200人の会員から募り，北海道から九州まで全国各地から多くのファンがつめかけた。数え切れないほどの祝花も寄せられた。店に到着してドアを開けた関は「どうしたのこのお花！」と驚いた。一部では伊藤君子，宮本貴奈，楠井五月，海老沢一博がステージに華を添えた。2部では店に縁のあるたくさんのアーティストが演奏に参加。パーティ開催を後押ししてくれた中平氏は司会とスピーチを務め，乾杯の音頭は古くからのお客さんがとった。すべてが関京子とBODY & SOULに惹き付けられた人々だ。本書は会員を中心に先行発売され，アマゾンと全国ディスクユニオンのチェーン店と銀座山野楽器で入手できる。「面白くて一気に読んでしまったよ」と言う声も寄せられた。

昨年，店内のリニューアルを行い，会員制を取り入れた。ミュージック・チャージの割引などの特典がある。メール・マガジンも毎回4200通ほどが送信される。旬の食材でシェフが丹精こめて作る料理も変わらない。会員の年齢層も幅広く，女性客も増えているという。取材に訪れた日も20代から70代までの男女さまざまなお客さんで満杯だった。

とても丁寧な作りの本書の編集をされたのはご主人。章ごとに添えられたスタンダード曲や，実質的な最終章の「内輪の話」から，「転載ふろく」「あとがき」「ここだけの話」につながっていくスピード感溢れる展開も読後の余韻を倍加させる。

厳しい耳と優しい目で"BODY & SOUL"を続け，ファンとアーティストを魅了してきた関京子。「ひとを惹き付ける力」がここに力強く息づいている。

＊1）松竹歌劇団。頭文字をとってSKDと呼ばれた。1928年に創設され96年に解散。

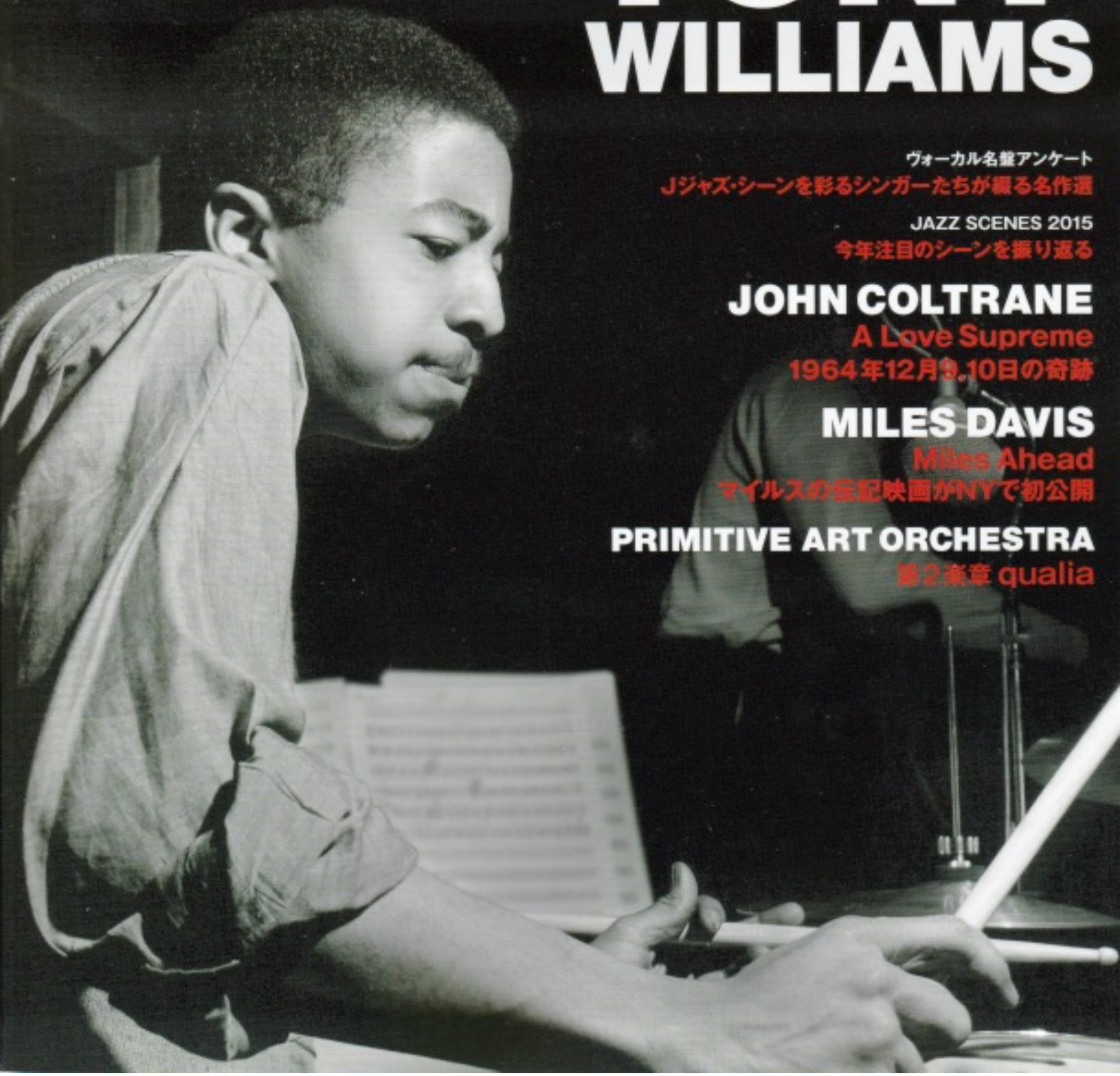
ヤング・ギター2016年2月号 増刊 2015年12月21日発行・発売 第45巻・第4号・通巻687号

JAPAN JaZZ®

Vol. 65 JAN. 2016

PORTRAIT IN MODERN JAZZ

TONY WILLIAMS



ヴォーカル名盤アンケート
Jジャズ・シーンを彩るシンガーたちが綴る名作選

JAZZ SCENES 2015
今年注目のシーンを振り返る

JOHN COLTRANE
A Love Supreme
1964年12月9.10日の奇跡

MILES DAVIS
Miles Ahead
マイルスの伝記映画がNYで初公開

PRIMITIVE ART ORCHESTRA
第2楽章 qualia